

美術品取扱い技術等に係わる委員会報告（平成21年3月23日）

—「美術品梱包輸送技能士」資格制度の創設（試案）—

1 はじめに （略）

2 資格制度の導入について

研修を実施する等により、博物館資料の取扱い技術等の習得の機会を設けることは、一つの方策ではあるが、機会を設けるだけでは、関係技能者等が実際に習得しようというインセンティブを与えるには至らない。また、競争入札に当たっても、研修等への参加だけでは、必要な知識・技能を修得したかどうかは保障されない。

必要な知識・技能を修得するインセンティブを与えるとともに、競争入札に際して、必要な知識・技能を持つ者が作業に従事することを保障するためには、梱包・輸送に携わる者を主たる対象として、こうした知識・技能に関する資格制度を設けることが有効であると考えられる。

こうした資格制度は、以前は国家資格として設けられる場合があったが、現在では新たな国家資格の創設は困難になっているため、民間資格として検討を行うこととした。

3 資格制度の対応する範囲について

資格制度の詳細を検討するには、資格が対応する博物館資料の範囲を予め規定しておく必要がある。

当委員会では、日本博物館協会が設ける委員会として、なるべく広範に検討を行うべきであるとする意見と、資格制度の運営のためには、少なくとも当初は狭く設定するべきであるとする意見があったが、次の理由から、美術品を主たる対象とし、標本や模型等をこれに準じて考えることとした。

- ① 取扱いに関する知識・技能の後継者の養成の問題や、競争入札に関する危険は、美術品の関係で顕著に意識されていること
- ② 美術品を収集・保存・展示する博物館・美術館は、我が国の博物館・美術館の大きな部分を占めること

- ③ 美術品は、他の館種の博物館の展覧会でも、しばしば展示され、その取扱いはこれら博物館でも共通の課題であること
- ④ 標本や模型等についても同様の課題があるが、その取扱いは、標本や模型等として制作された際の材質や製法、形状によるところが大きく、美術品に準じてとらえることが可能であること

4 資格制度について

本委員会では、作業部会を設けて、資格制度の詳細について検討した。その結果は、次のとおりである。

(1) 名称

「美術品梱包輸送技能士」とする。

(2) 等級の区分

各種美術品の梱包知識と技術能力に応じて下記の等級区分とする。

等級	摘 要
1 級	全ての分野の作品について、所有者・学芸員の指示の下、独立して取り扱うことができ、取扱いの難しい作品の梱包設計が行える水準
2 級	全ての分野の作品について、所有者・学芸員の指示の下、独立して取り扱うことができ、現場で作業員の監督ができる水準
3 級	需要が多く、比較的取扱いの容易な陶器、額装の絵画、屏風、掛け軸などは、所有者・学芸員の指示の下、独立して取り扱うことができ、それらの梱包・運送に必要な段ボールケースが準備できる水準

注：対象となる作品等の分野については、資料2参照。

(3) 受験資格

認定試験の受験資格は次のとおりとする。

等級 \ 資格	経験年数	保有資格
1 級	10年以上	2 級
2 級	5年以上	3 級

3 級	2 年以上	
-----	-------	--

注：経験年数は、美術品の運送に限らず、運送業の在籍年数とする。
（営業も含む。）

（４）認定試験の方法

筆記試験、実技試験、面接試験によって行う。

【筆記試験】

- ・ 1 級は、取扱いの難しい作品の梱包設計を課題とする。
- ・ 2 級、3 級は、資料 2 の実技試験の対象となる作品等分野を対象として、梱包・運送に当って気をつけるべき点、望まれる梱包・運送の方法などを問う。
- ・ 3 級では、美術品取扱いに当たり必ず知っておく必要がある、美術品及びその部分の名称についても設問する（資料 2 の分野に限定されない）。
- ・ 2 級、3 級の試験は、原則として多肢選択で、50 問、60 分程度を想定する。
- ・ 2 級、3 級の筆記試験のイメージについて、資料 3 参照。

【実技試験】

- ・ 2 級、3 級は、実技試験を行う。
- ・ 資料 2 の各級の対象となる作品分野等のうち 2～3 について行う。
- ・ ベテランの所要時間に 5 分程度加え、10～20 分程度の時間を区切って、作業を行わせる。時間内に終了すれば、所要時間の差は評価しない。
- ・ 開梱、展示、梱包準備から梱包までの過程の、全体又は一部の作業を行わせるが、重点は梱包に置く。
- ・ 原則として、プロセスを重視することとし、チェックポイントのリスト（チェックリスト）を作成して、複数の審査員が役割分担して評価する。
- ・ 3 級では、原則として、受験者が単独で作業を行う。
- ・ 2 級では、審査員の 1 人が補助作業員として受験者に付き、受験者の指示により補助し、指示の的確さ等を評価する。
- ・ チェックリストの例について、資料 4 参照。
- ・ 実技試験のイメージについて、資料 5 参照。

【面接試験】

- ・ 1、2 級は、面接試験を行う。
- ・ 面接試験では、挨拶を含む態度、他人とコミュニケーションする能力等を評価する。

- ・ 1級では、取扱いの難しい作品の梱包・運送に関する口頭試問を含む。

(5) 認定試験の実施回数

下記(10)の経過措置期間終了後は、各級とも年1回、原則として東京で実施する。

各級とも、半日程度の日程を想定する。

(6) 受験料

3級については、1万円程度を想定する。

上級資格については、少し高くすることも視野に入れて検討する。

(7) 合格証書の交付

合格者に対しては、「美術品梱包輸送技能士〇級検定合格証」(仮名)を交付する。

(8) 資格の更新制

新たな技術の開発等は余り想定されないので、更新制は採用しない。

(9) 研修等

講師の手配や必要経費を考えると、全領域をカバーする研修を実施することは、実際上は困難かと思われる。しかし、将来的には、上級資格取得の鍵となる知識・技能などについて、何らかの形で、習得する機会が設けられることが望まれる。

自習用のテキストは必要であり、作成も可能である。作成すれば、学芸員にも重要な参考資料になるので、テキストの作成、頒布について、今後検討することが求められる。

(10) 経過措置

発足当初に経過措置期間を設け、現職者全員の資格取得を奨励する。

経過措置の在り方については、試験方法等が具体化してから検討する必要があるが、アイデアを列挙すると次のとおり。

- ・ 3級を持たずに2級を受験できることにするのも一案。
- ・ ただし、1級は2級の保有を条件とするべきか。
- ・ 初年度は下級の認定試験から開始し、後年度上級を発足させれば、実技を省略することも可能か。

- ・ 実技については、現場での評価を取り入れることを検討する。
- ・ 東京以外の地も含め、年間複数回・箇所の実施も検討する。
- ・ 複数の問題を作成しなくて良いよう、筆記試験については同時に実施し、実技は別期日に行うのも一案。

(11) 制度の所要経費

当初は、実技試験用資材の調達と安価な試験会場の確保が、経過措置期間終了後は、受験料以外の収入の確保が課題になると思われる。

詳細については、資料7参照

5 資格制度の実施主体等について

本資格制度は、我が国の多くの博物館・美術館が共有する課題に応えるものであり、公的な主体が運営することが求められる。

また、民間資格である以上、受験料や関係者の協力を募り、自己収入で運営していくことが望まれる。

こうしたことから、日本博物館協会が関係者の理解・協力を得て、本制度の実施主体となることが望まれる。

日本博物館協会では、まずは本報告について、全国の博物館や梱包運送業者の理解・協力を求め、その意向を調査するとともに、認定試験の詳細や自習用テキストの作成について検討を行うなど、早急に実施に向けた準備を開始することが求められる。

この資格制度が、関係者の理解・協力を得て、早期に日本博物館協会の下で設けられ、多くの博物館・美術館や、梱包・輸送に従事する技能者に活用されることを期待する。

資料 1 (略)

資料 2 実技試験の対象となる作品分野等

等級	作品分野					梱包手順	
	陶器	額装絵画	屏風	掛軸	卷子	紙製ケース	タンカ
2 級					○		○
	着物	茶道具	埴輪	甲冑	彫刻	L型	木製ケース
	○	○	○	○	○	○	○
3 級	陶器	額装絵画	屏風	掛軸	卷子	紙製ケース	タンカ
	○	○	○	○		○	
	着物	茶道具	埴輪	甲冑	彫刻	L型	木製ケース

注 梱包手順については、作品の養生に始まり、ここに挙げた紙製ケース等を、作品に応じて作成して梱包するまでのプロセス、出来上がり、所要時間などを問う。

資料3 筆記試験のイメージ

◆3級 筆記(各部名称)

軸等「図」を用いて同様の設問を作る

【設問 1】 (四者択一)

図1の(A)の名称で適当と思われるものを下記の1~4の中から選べ

- 1・光背 2・〇〇 3・〇〇 4・〇〇

【設問 2】 (四者択一)

図1の(B)の名称で適当と思われるものを下記の1~4の中から選べ

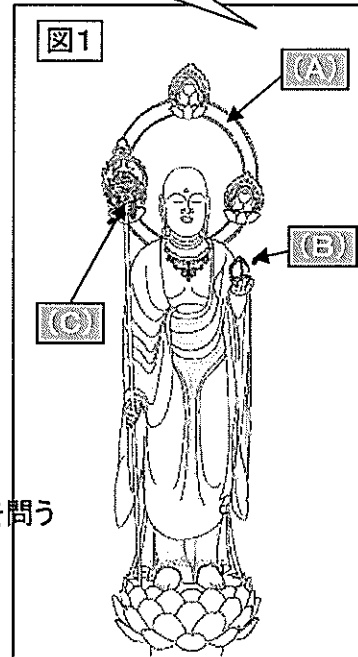
- 1・薬壺 2・宝珠 3・五輪塔 4・〇〇〇

【設問 3】 (四者択一)

図1の(C)の名称で適当と思われるものを下記の1~4の中から選べ

- 1・戟 2・瓔珞 3・錫杖 4・宝剣

(注) この例は、設問の形式を示すもので、もう少し一般的な名称を問うことが望まれる。



出題と傾向の方法例です。

◆3級 筆記(基礎知識)

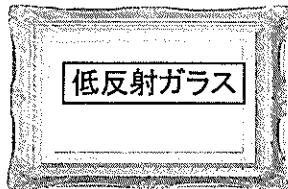
【設問 1】 下記の処理方法で正しいと思われる場合〇、間違っていると思われる場合は×で答えよ

桐箱に入った漆器を輸送する為、漆器を薄葉紙で包み桐箱と漆器の隙間を緩衝材として薄葉紙を用いて動きを抑えた。
返却先にて点検した後、中身が動きやすいので薄葉紙にて同様に包み抑えをして保管をした。

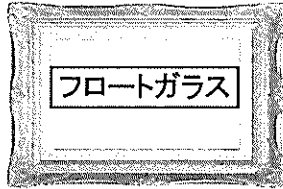
【設問 2】 下記の設問にお答え下さい。

絵画の保護の為に入れられたガラス・アクリルについて、輸送に伴い飛散防止の為に、粘着テープ等を貼った方が良いと思われるものには〇、貼らない方が良いと思うものには×をつけて下さい。

(1)



(2)



(3)



【設問 3】 右上の図の仏像を一人で移動させたい。手をかけても良い部分を丸で囲め。

資料4 実技試験のチェックリストの例

その1 時間制限10分の例

[テーマ] 掛け軸を仕舞う。

[進行] 掛軸を矢筈を用いて下ろす。
巻止めを当てて、巻緒を止める。
桐箱に納め、蓋を閉める。

[チェックポイント]

巻き上げ時のゆるみ・竹の子
矢筈で下ろす際に巻緒をつかんだか
軸の握り方
風帯の収め方
巻止の入れ方
巻緒の止め方
桐箱への収め方
桐箱の蓋の合わせ方

[準備用品] 掛け軸(桐箱入り)
自在、矢筈

[注意点] 緊張した雰囲気
10分の時間制限
マナーも評価

資料4 その2 掛け軸に関する総合的なチェックリスト
(実際の実技試験では、この一部を利用)

手 順		チ ェ ッ ク ポ イ ン ト		採点
マ	ユニフォーム	帽子	前髪を出さず脱げないようにかぶる	例○
		ボタン	シャツのボタンをしっかりと留める(襟元・袖)	
		ブルゾン	チャックは名前の位置まで上げる	
		ベルト	バックルをベルト通しに隠す	
		ポケット	無理に物を詰めない・ボタンを掛ける	
		清潔	洗濯をしたもの	
		袖口	腕まくりはしない	
ナ	挨拶	始業時	おはようございます	
		終了時	ありがとうございました	
		靴	出船の形にそろえる	
		言葉遣い	丁寧な言葉	
一	態 度	安全靴	かかとは踏まない	
			作業中の私語をつつしむ	
			ポケットに手を入れない	
			10分前には集合する	
基本事項		腕時計・指輪をはずす		
		手を洗う・つめは短く清潔に	/17	
準	道 具		カッター メージャー 白手袋 ハンマー	
			ヤハズ フック 自在金具	
			脚立 作業台 マット	
備	材 料		テープ類	
			包装紙	
点 検	作業場所の設置	壁面	ピン・釘など残っていないか確認	
		作業台	薄紙養生	
		床	巻段ボール・マット・薄紙敷き	
	たとう箱から出す		つめ確認	
			後ろの穴を押す	
	桐箱を開ける	蓋	蓋の合わせ方確認	
			右持ち上げて左にずらす	
			てこの応用で開ける	
		箱書きを上にして置く		

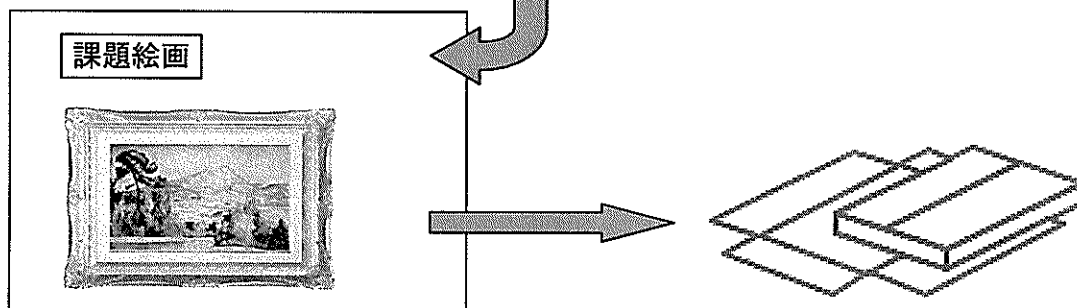
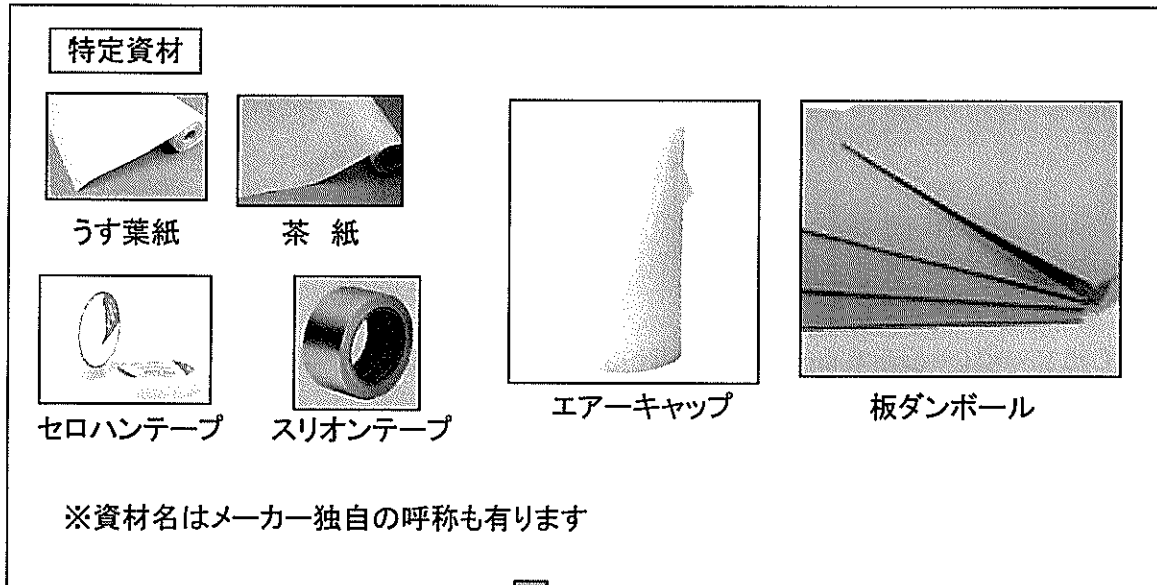
	付属品を確認	チェックリスト	書状・巻止・太巻き・桐箱・夕ウ	/10
陳 列	箱から軸を出す	間隔 高さ フック・自在	掛緒を持つ	
	吊り位置決定		左手を添える	
			空間の計算 等間隔など	
	軸を掛ける		学芸員が決定・センター合わせなど	
			脚立利用を利用して取り付ける	
			巻緒を解く	
			ほどいた巻緒を片方に寄せる	
			巻止を外す	
			風帯を延ばす	
			金具に届く位置で矢筈を持つ	
			矢筈を掛緒に掛ける	
			両手を伸ばしてから矢筈を上げて行き掛ける	
			軸を持ち腰を下ろしながら開く	
	傾きを直す キャプション取り 付け		太巻きがあれば外して桐箱に戻す	
			左手で柱を持ち矢筈で調整する	
			壁面に固定	
			または床に置く	/17
撤 収	ほこりを払う 巻き上げる	毛ばたき	画面に触れないように埃を払う	
			太巻きがあれば当てる	
			軸を持ち巻く	
			本紙の隠れるまで巻き上げる	
			たれている巻緒を指でつかまえる	
			矢筈を受け取り、掛緒に掛けて金具から外す	
			掛軸をたるませないように右に傾けて逆さにして矢筈を外す	
			左右の軸を持って八双まで巻き上げる	
			掛軸を上向きにして風帯をたたむ	
			巻止を風帯の下に挟み巻く	
			巻緒を巻いて止める	
			箱に収める	/12
内装	白薄葉紙	掛軸を包む		

梱 包	外 装	クラフト紙	箱に収める	
			がたつきを止める	
			蓋に題字がある場合は、白薄葉紙で包む	
			クラフト紙を切る	
		防 水 紙	包む	
			防水紙を切る	
			包む	
			ラベルを貼る	/9
* 所要時間		時間	分	

資料5 実技試験のイメージ

◆3級実技(絵画梱包の例)

1・事前準備した特定資材を提供し、絵画を梱包をさせる。



評価のポイント

- ①内装手順板(中側から薄葉紙→茶紙→エアークラップ→板ダン)
- ②ダンボールの加工精度
- ③所要時間
- ④内装梱包の開口側の報告(巻き込んだ開口側が絵画上報告)
など

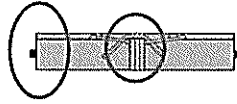
(注) 実技試験は、チェックリストを作成し、複数の審査員が役割分担し、リアルタイムに評価するのとするが、この試験は、事後の結果の検証を中心にする事により、多人数の同時受験が可能
制限時間は30分程度か

◆3級実技(掛軸及び陶器等桐箱取扱の例)

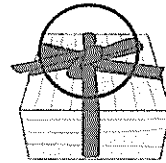
1・付属の桐箱から取り出し、展示した後、再度桐箱に納める

評価のポイント

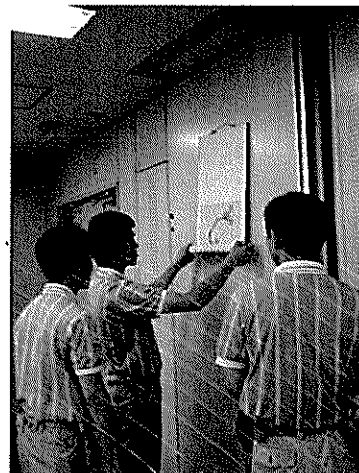
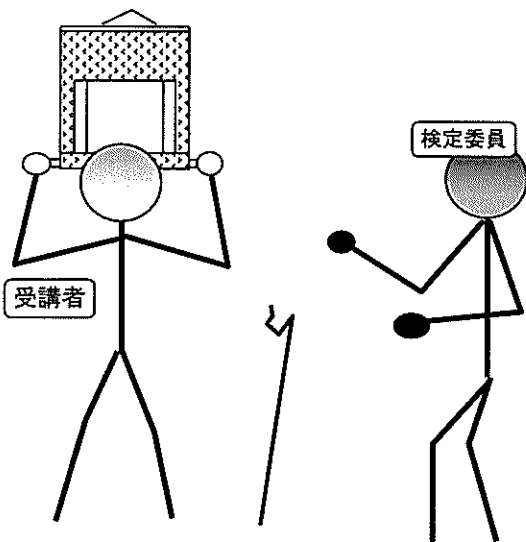
①巻き具合・結び目を評価する



②所要時間



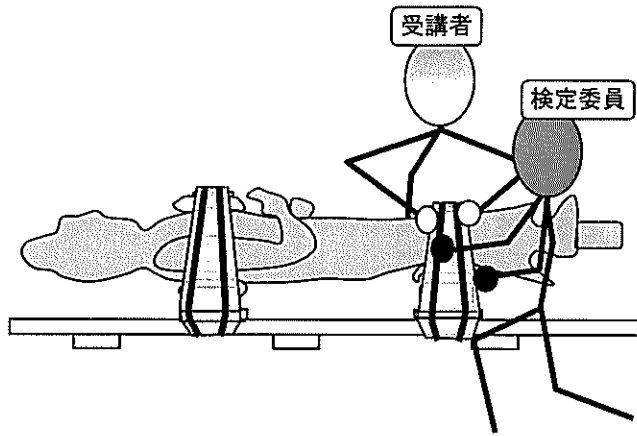
③「桐箱から出す→解く→展示する→巻く→桐箱へ戻す」等一連の流れも評価する。





◆2級実技(仏像取扱の例)

1・予め用意された担架へ仮置きされた立像の固定を検定委員の1人が補助者として実施し評価す



資料6【電験2種認定基準認定マトリックス】

資格認定の基準	講義	試験方法		実技		筆記		口頭試験(面接)	
		要技	筆記	作品等分野	実技	作品等分野	筆記	試験内容	評価基準
<p>◆審査が多く、比較的取り扱いは容易な陶器、類装の絵画、屏風、掛け軸などは、所有者・学芸員の指示の下、独立して取り扱うことができ、梱包・運送に必要な段ボールケースが準備でき、水準を認定する。</p>	多数	<p>受講者1人で行う梱包作業を中とし、プロセスを評価する。</p> <p>チェックリストにより、複数回の審査員が分担して審査。</p>	<p>各作品分野の名称、部作名称のうち、作業推進する側で、最低限必要と思われる呼称を問う。</p> <p>取扱全般で遭遇する場面・頻度が高い場面において、梱包・運送に携わる者は誰でも知っていることとを問う。</p>	<p>以下の分野の中から2～3分野</p> <p>陶器 類装絵画 屏風 掛け軸 段ボールケース</p>	<p>手順 仕上がり モノに対する態度</p>	<p>作品等分野</p> <p>作品の取扱いに関する分野を中心とする。</p> <p>陶器 類装絵画 屏風 掛け軸 段ボールケース</p>	<p>正誤数での点数評価(50問程度)</p>	<p>試験内容</p>	<p>評価基準</p>
<p>◆巻子、着物、通箱、甲冑、彫刻なども含め、全分野の作品を、所有者・学芸員の指示の下、独立して取り扱うことができ、現場で作業員の監督ができる水準を認定する。</p>	多数	<p>審査員の1人が作業者補助者として付随し、受講者の指示を受け、プロセスを評価する。</p> <p>チェックリストにより、複数回の審査員が分担して審査。</p>	<p>取扱全般の様々な場面に携わる者に必要な知識を問う。</p>	<p>以下の分野の中から2～3分野</p> <p>巻子 着物 通箱 甲冑 彫刻 タンス</p>	<p>手順 仕上がり モノに対する態度</p>	<p>作品等分野</p> <p>下記の分野を中心とする。</p> <p>巻子 着物 通箱 甲冑 彫刻 タンス</p>	<p>正誤数での点数評価(50問程度)</p>	<p>態度 コミュニケーション能力</p>	<p>通常の面接と同様</p>
<p>◆全分野の作品を、所有者・学芸員の指示の下、独立して取り扱える水準の難しい作品の梱包設計が行える水準を認定する。</p>	少数	<p>テーマを与え、梱包設計を行う。</p>	<p>取扱いの難しい彫刻等の課題とする。</p>	<p>取扱いの難しい彫刻等の課題とする。</p>	<p>手順 仕上がり モノに対する態度</p>	<p>作品等分野</p> <p>取扱いの難しい彫刻等の課題とする。</p>	<p>設計を評価</p>	<p>態度 コミュニケーション能力 梱包設計</p>	<p>梱包設計等については口頭試験</p>